

南京都名建築見学会

1月21日(日) 桜井支部主催 平成29年度研修会、晴天の良い日和の中、催されました。行先は南京都の名建築巡りです。参加者は11名、午前中に2か所昼食後午後2所で、バスで廻り、盛りだくさんの割に充実した研修会でした。

朝8時に桜井駅を出発しましたが、道路がスムーズにはかどり、1番目の大山崎山荘には10時前に到着しました。

【アサヒビール大山崎山荘美術館】

大阪府と京都府の境にある天王山の山腹にあり木津川・宇治川・桂川の三川が淀川へと合流する美しい風景が見られ、JR 東海線の車窓からも見ることが出来、京都府の登録博物館です。開門は10時丁度との事で、しばらく待つて入館しました。運営は公益法人アサヒグループ芸術文化財団。大山崎山荘は関西の実業家加賀正太郎氏によって大正から昭和初期建てられ、欧州へ遊学中、テムズ川を見下ろすウインザー城の風景を重ねあわせ、ここに山荘を自ら設計した、英国風山荘です。構造は鉄筋コンクリート造で、外観は木の柱を露出させその間にレンガ壁を組んだハーフティンバー工法です。テラスからは風景は絶品でした。本館には、民藝運動から生み出された河井寛次郎やバーナード・リーチらの陶芸作品や工芸作品、地中館『地中の宝箱』（安藤忠雄氏設計）には、モネ作の《睡蓮》をはじめ・ユトリロ・ルノアール等の絵画などが展示されていました。又、同氏設計の山手館『夢の箱』は円形の地中館とは対称に箱型で構成されていました。建物、庭、内部の展示とさまざまに楽しめる美術館でした。



大山崎山荘本館前で

【聴竹居（ちょうちくきょ）】

山崎の隠れた名建築で、藤井厚二という大正から昭和初期に活躍された建築家のものでした。京都の大山崎の天王山の麓に12,000坪の土地を購入し、そこに彼は5回目の自邸を建てました。昭和3年に作られた環境共生住宅の原点（自邸を検証のための実験として作り、実際に暮らした上でよりよい日本人の住まいのあり方を追及したの）といわれる建物です。2017年7月31日に重要文化財に指定されました。現在は、竹中工務店の所有で、「一般社団法人聴竹居倶楽部」が管理し、スタッフの方々の案内で見学しました。四季の空調を自然とうまく利用工夫し、感心させられました。

昼食はJR山崎駅近くのレストランでパスタランチを頂き午後の研修見学に向かいました。

【松殿山荘】

山荘の設計は、すべて流祖：高谷宗範（たかやそうはん）『検事・弁護士として活躍した茶人』自らおこなったそうで、土地の高低を考え、百分の一の模型を作り、建物を建て、池泉を掘り、樹木を植え、石を配した庭園だそうです。その基本は、方円の考えに基づくもので、「心は円なるを要す、行いは正なるを要す」心は円満に丸く、行いは常に正しく四角く、という考えに根ざしており、その思想は丸・四角と建物随所現れていました。小間の茶（草庵式）のみではなく、広く一般の人が楽しめる広間の茶（濃茶・書院式）を広めようと考えて建てたものだそうです。書院には書院式の庭園を、小間の席には草庵式の庭をもち、それぞれに主景、借景となる様に工夫した庭園です。又、宗範は旧両替商の天王寺屋を買い取り一部移転し、天王寺屋の在りし日の姿をとどめ、松殿山荘の大玄関他、を移転しています。尚、この山荘は約900年前に関白藤原基房が『松殿』（まつどの）という別荘を営んでいた所であり、又、曹洞宗開祖の道元禅師の誕生の地とも言い伝えられています。

【月桂冠大倉記念館】

伏見城の外堀・濠川沿いの柳並木。白壁土蔵の酒蔵。月桂冠大倉記念は、貴重な酒造用具類を保存し、伏見の酒作りと日本酒の歴史を分かりやすく紹介していました。

（記・桜井支部 松尾憲治）